



— 3 学期始業式 式辞 —

おはようございます。2学期の終業式では、「自業自得」の話をしました。自分の行いがすべての結果につながるの、善業（善い行い・努力）の積み重ねが大切である、と。皆さん、この冬休みの過ごし方は、どうでしたか？また、式の最後に、3学期の始業式には元気に登校してください、とお願いしました。本日、皆さんが無事に登校でき、再び仲間とともに新学期を迎えることができよかったです。

先日、新年の俳句をインターネットで調べていると、次の俳句が目にとまりました。

「年立ちて ころろ静けき 起居かな（高橋 淡路女 作）」

※起居（たちい、ききよ）＝日常の生活。起き伏し。ふだんのように。動静。

これは大正-昭和時代（1890～1955）に活躍した兵庫県出身の俳人である高橋 淡路女（たかはし あわじじょ）さんが詠んだ俳句です。年が明けて、心静かな（心穏やかな）日常の動作について、目を向けたときの気持ちを詠んだのでしょうか。私たちは、新年を迎え、何か良いことが起きてほしいと期待する気持ちになりますが、「何事もなく正月を迎えられるだけで幸せである」という、平穩無事に日常生活を過ごせる有難さを、この句に接しあらためて痛感しています。

そのように感じたのは、元旦に能登半島で震度7の大きな地震が起きたからです。二次災害として、大規模な火災や津波も発生しました。それに伴って多くの犠牲者や甚大な被害が出ています。また、災害援助物資を運ぶ自衛隊の飛行機が羽田空港で旅客機と衝突する事故も起きてしまいました。

1週間たった現在でも、安否不明者の捜索や救援物資の搬入、交通路の復旧などの作業が、余震が続き雪の降る中で難航しています。多くの被災者が避難されていますが、避難できずに孤立状態のままの方もおられます。ライフラインの復旧のめども立っていない状況です。

国は、この地震を甚大災害に認定し、長期的に支援する方針を決定するようです。ここで、被災されている多くの方々が一日でもはやく日常生活を取り戻せますように、お見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙とうをささげたいと思います（黙祷）。

行政は、地震だけでなく自然災害に備えて、地域とともに組織的に対応する対策を講じてくれています。昨日、姫路西消防署城陽分団の出初式に出席しました。休日の朝早くから地域の消防団の方が消防署員の方とともに放水訓練を実施し、災害に備えて訓練されている様子を見て、有難い気持ちでいっぱいでした。非常時に備えて地域の消防団の方が守ってくれていると思うだけで、私たちは安心して生活できます。

その出初式で消防団の方が次のように挨拶されていました。

「私たちは、この地域で、播磨南西部で、災害が起きればすぐに出動し、消火活動や支援活動を行います。しかし、我々だけでは人手が足りません。やがて南海トラフ地震が起きるときが必ず来ます。そのときはどうか皆さんの力を貸してください。また、台風の接近に伴う風水害については、天気予報でどう対応するか、前もって考えてから行動できます。しかし、今回のように突然に巨大地震が起こったときにどう対応するかは、地震が起こる前にしっかりと考えておく必要があります。どうかこの機会に、一度ご家族で話し合ってほしいと思います」と。

日本は、地球の表面を覆うプレートが重なった部分にできた弧状列島であるために絶えず地震が起きます。そのような地形の上の場所で生活している私たちは、地震の被害を最小限に食い止め、地震発生時にどう対応するか、普段から考えて準備しておく必要があります。消防団の方が話されたように、大きな地震が起きたときに、どこの避難所に避難するか、具体的に話し合ってみてください。

それでは、3学期が無事にスタートできることに感謝し、災害だけでなく交通事故に遭わないように気をつけて、元気に登校してください。そして、皆さんがそれぞれの目標に向かって、善業を積み重ね、成果が得られるように期待しています。

どうぞ本年も宜しくお祈りします。以上、式辞とします。